



熊本県知事
潮谷 義子

祝 辞

第20回ベートーヴェン「第九」演奏会の開催を心からお慶び申し上げます。

交響曲の最高傑作ベートーヴェン「第九」は、私も大好きな曲であり、聴くたびに大きな感動と新たな希望を与えてくれます。

県立劇場が開館した昭和57年から始まったこの演奏会は、毎年、多くの県民の方々を魅了し、今やすっかり熊本の年末を彩る恒例行事として定着しています。

毎年数十人の新しい会員を迎え300人を超える方々で結成される「県民第九の会」は、本県合唱界にあって大きな峰を形作り、確実にその裾野を広げながら、音楽を通じた本県文化の振興に御尽力いただいております。

本日の演奏会では、オーケストラとともに舞台上に立たれる方も、会場にあって、口ずさまれる観客の皆様方も、交響曲の旋律とシラーの詩の素晴らしさを存分に味わいながら、その歓喜のハーモニーをコンサートホール一杯に響きわたらせていただき、新たな感動と希望を持って新しい年をお迎えになることを願っております。

最後に、本日の演奏会の御盛会と皆様方のますますの御活躍、御発展を心よりお祈りいたします。



熊本県立劇場館長
川本 雄三

第20回を祝して

熊本県民第九の会の公演も今回で20回目の開催、いわば「成人式」にも当たるわけで、まことにめでたいことです。心から祝意を表させていただきます。

今回、初めての女性指揮者としてタクトを振る松尾葉子さんは、1982年にプザンソンの指揮者コンクールで第一位に入賞して以来、その活躍ぶりは広く知られています。まさに男女共同参画社会のパイオニアの一人といつてよい存在で、新時代の進展にふさわしい登場だと思えます。

ところで、かくも日本人に愛好され続ける「第九」。その日本での事始めは、第一次世界大戦下の大正7年6月1日。捕虜として徳島県鳴門市の捕虜収容所にいたドイツ兵たちが、日本人との交流を図る文化活動として演奏したのが本邦初演だったとか。

では、日本人による初演はいつだったのか。新説としては、かつての九州帝大にあった九大フィルが、大正13年1月26日に福岡市で演奏したのが最初だと、昨年だったか毎日新聞で読んだことがあります。ともかく「第九」についての話題は尽きません。

熊本県民第九の会の記念すべき20回目の演奏会も、また大成功に終わるように祈っております。



熊本県文化協会会長
安永 路子

いつも、冬は第九を

恒例の第九の夜が近くなりました。古典音楽の魅力は長年にわたって芸の細部に至るまで厳粛なまでの練習のたまものと、今年もその夜の興奮まで予想しながら待つのも心踊るものに他ありません。いま現代は凡その芸術がめまぐるしい速変で変化しています。ロックもジャズもものの二十年の短時間に退化しました。それは日本にことに激しい現象です。海外はもっとじっくりと音楽の時間は流れていると聞いています。それが本当だと私たちも思います。音楽は真にすぐれた人たちの芸であり、時代や時代のハンデに関わるものではない。純粹にすぐれたものであるべきだということを、私たちは辛うじて第九の例年の厳然たるレベルで理解します。変らぬレベルを毎年聴くことの厳粛を芸術存在のあり様だと心得てゆかねばと思っています。

今年も熊本出身のすぐれたソリスト連の出演でたのしむことが出来ます。大変うれしいことです。いい冬になりそうな風景を晩秋の椅子にしながら思っています。

今年のベートーヴェンの魅力がどう物語るのか、耳をすませて聴きたいと思えます。皆様の御熱意に感謝いたします。



熊本県民第九の会実行委員長
草刈 秀士

ご挨拶

皆様本日は年末のお忙しい中ご来場戴きありがとうございます。皆様方のご支援・ご声援のおかげで第九の会は20周年を迎えることが出来ました。

今回は20回の記念公演として、第九の会としては初めて女性指揮者の松尾葉子先生をお迎えしての演奏会です。松尾先生につきましてはプログラムの紹介にもありますように、全国各地で精力的にご活躍しておられ、テレビ等にも出演されて皆様方も良くご存知の事と思えます。私も本日の演奏会を大変期待しています。

今年の合唱団員は約300名ですが、8月より練習を重ねて本日の本番を迎えました。内40名が未経験者で今回初めて第九のステージを経験する事になりますが、すばらしい感動の体験となる事でしょう。熊響と300名の合唱団でベートーヴェンの第九を歌う体験は格別なものがあります。

第九の会では毎年6月～7月の間に、合唱団員を一般公募し8月より練習を行なっています。皆様方も一緒に歓喜の歌を歌いませんか！募集要項は県劇をはじめ公共の施設で6月より配布を始めますので多くの皆様方のご参加をお待ちしています。

末尾になりましたが熊本県文化協会・熊本県立劇場の助成、ご後援の各社、その他多くの皆様方のご協力に厚くお礼を申し上げます。

今後とも県民の皆様方の積極的なご声援ご来場により、第九のハーモニーが年末の熊本に末長く響きわたることを願っています。

指揮 松尾 葉子
独唱 ソプラノ 三 縄 みどり
メゾ・ソプラノ 杉 野 麻 美
テノール 米 澤 傑
バリトン 瀬戸口 浩
合唱 熊本県民第九の会合唱団

合唱指揮 林 原 隆 治
工 藤 勇 壹
松 岡 聡
ピアノ 古 閑 恵 美
真 田 眞 澄
浜 田 志 貴
林 原 ゆ り

管弦楽 熊本交響楽団



指揮 松尾 葉子 (まつおようこ・Yoko MATSUO)

1982年フランスのプザンソン指揮者コンクールで、女性としては史上初めて、また日本人としては小澤征爾に次いで二人目の優賞という壮挙により、一躍注目を集めた松尾葉子は、実力と人気を兼ね備えた指揮者として着々と地盤を固めている。1998年4月セントラル愛知交響楽団の客演常任指揮者を経て、1999年4月からは同楽団の常任指揮者に就任と、ますますの活躍が期待されている。セントラル愛知交響楽団とは、定期演奏会や特別演奏会などで着実に実力を増し評価されるほかに、2000年6月、名古屋能楽堂にて能の演出を用いたモーツァルトの歌劇「ドン・ジョヴァンニ」を行ない話題をさらうなど、意欲的かつ多彩な活動も行なっている。

名古屋生まれ。1975年お茶の水女子大学教育学部音楽科を卒業後、東京芸術大学指揮科を経て同大学院に進み、渡邊暁雄、小林研一郎の両氏に師事。1981年渡仏、パリのエコール・ノルマルでピエール・テルポー氏に師事。

帰国後の1982年に名古屋フィルを指揮して生まれ故郷の名古屋にデビュー。翌年、「若い芽のコンサート」でNHK交響楽団を指揮、絶賛を博した。以後、東京交響楽団、新日本フィル、読売日本交響楽団、日本フィル、新星日本交響楽団など日本の殆ど全てのメジャー・オーケストラを次々と指揮し、高い評価を得ている。

また、オペラ、オペレッタの指揮でも好評を得ており、1985年には文化庁移動芸術祭および関西二期会公演の「メリー・ウィドー」、1987年は二期会公演「こうもり」、1988年関西二期会公演「カルメン」、「トラヴィアータ」を、1989年には、トーマの「ハムレット」を東京グローブ座にて指揮、1991年二期会公演「メリー・ウィドー」、1992年二期会公演「こうもり」、1993年大阪カレッジ・オペラハウス「コシ・ファン・トゥッテ」、1996年都民オペラ劇場「ドン・ジョヴァンニ」、1997年「アイダ」、1998年「天国と地獄」、2000年能演出による「ドン・ジョヴァンニ」など多くの作品を指揮している。

海外での活躍も多く、1983年にはトゥールーズ室内管弦楽団など数多くのオーケストラを、1985年にはパリ・シャンゼリゼ劇場でラムルー管弦楽団を指揮している。1993年4月には、芦屋交響楽団のヨーロッパ・ツアーに同行、ベルリン、ウィーンにて指揮し大好評を博した。



平成13年12月23日(日) 《第19回熊本県民第九の会演奏会(指揮=田代詞生)》から

三 縄 みどり (みなわ みどり)
ソプラノ



東京芸術大学卒業、同大学院オペラ科修了。
1988年よりイタリアへ短期留学を重ねる。
「ラ・ボエーム」のミミ、ムゼッタ、「フィガロの結婚」伯爵夫人、スザンナ、「カルメン」ミカエラ、「神々の黄昏」ヴォークリンデ、「椿姫」ヴィオレッタ、「トスカ」トスカ、「ドン・ジョヴァンニ」エルヴィーラ、「魔笛」パミーナ、「コジ・ファン・トゥッテ」フィオルディリージ等、数多くのオペラに主演。またサントリー・ワーグナーシリーズで「妖精」「恋愛禁令」を歌い高い評価を受ける。
各地のオーケストラとの共演も多く、ベートーヴェン「第九交響曲」(秋山和慶指揮 東京交響楽団、フルネ指揮 東京都交響楽団、コミッション指揮、アジアユースオーケストラアメリカ公演、他多数)「荘厳ミサ」マラー「千人の交響曲」(エッセンバッハ指揮 東京交響楽団、若杉弘指揮 NHK交響楽団、他)同「交響曲第二番」同「交響曲第四番」(シャロン指揮 札幌交響楽団、広上淳一指揮 NHK交響楽団)、ハイドン「四季」(若杉弘指揮 東京都交響楽団)「天地創造」、ブルックナー「ミサ曲第三番」(小ルストシュタイン指揮 NHK交響楽団)「テ・デウム」、バッハ「マタイ受難曲」「口短調ミサ曲」、メンデルスゾーン「エリア」、モーツァルト「レクイエム」「八短調ミサ曲」、ヘンデル「メサイア」、ドヴォルジャーク、フォーレ「レクイエム」他、多数のオラトリオ、ミサ曲、カンタータのソプラノソリストとして活躍している。また現代曲にも意欲的に取り組み、プリテン「イルミナシオン」(ハインツホリガー指揮 イギリス室内管弦楽団)シェーンベルク「月に憑かれたピエロ」(高関健指揮 京都市交響楽団、井上道義指揮 アンサンブル金沢)「弦楽四重奏曲第二番」(高関健指揮 大阪センチュリーオーケストラ)など上演する。
また、TV、FM等にも出演。歌曲のリサイタルも各地で開く等、幅広く活躍している。1988年にCD「悲歌」(猪俣隆作作品集)、「中田喜直を歌う」に参加。2000年秋に日本の歌のソロアルバム「ひとりぼっちがたまらなかつたら」をリリース。
二期会会員、横浜シティオペラ会員。

杉 野 麻 美 (すぎの まみ)
メゾ・ソプラノ



東京芸術大学音楽学部声楽科卒業。
東京芸術大学大学院オペラ科修了。
文化庁オペラ研修所第8期生修了。
文化庁芸術家在外派遣研修員としてイタリア、ミラノに留学。
第37回 全日本学生音楽コンクール東京大会 第1位。
第1回 日本声楽コンクール 入選。
イタリア ガリ・クルチ記念バルレッタ音楽コンクール 第1位。
第9回 グローバル東郷子賞 受賞。
初の日韓交流オペラ「リゴレット」のマッダレーナ役で、二期会オペラに、デビュー。二期会ダ・ポンテ250年生誕記念公演「コジ・ファン・トゥッテ」では、ドラペッラ役を好演した。「カルメン」のタイトルロール、「アイダ」のアムネリス、「フィガロの結婚」のケルビーノ、「カブレレーテ家とモンテッキ家」のロメオ、「チエネレントラ」、「ボッペアの戴冠」のオッターヴィア、「モモ」、「椿姫」、「こもり」、「泥棒とオールドミス」、「魔笛」、「利口な女狐の物語」・原語(チェコ語)による日本初演、等多くのオペラに出演。
新国立劇場では、初演の「罪と罰」で、カテリーナ役、「サロメ」では、ヘロディアスの小姓役、「忠臣蔵」の女将役等に出演している。
新日本フィル交響楽団トリフォニーシリーズで、「カヴァレリア・ルスティカーナ」、「死の都」に出演、好評を博した。また、東響、東フィル、新星日響、等、日本の代表的なオーケストラとの共演も多い。
歌曲の分野でも、NHK・FMリサイタルに出演するなど多くのコンサートを行い、「第九」、「ヴェルディ・レクイエム」、「戴冠ミサ曲」(モーツァルト)、「スタバート・マーテル」(ドヴォルジャーク)、「小狂戯ミサ曲」(ロッシーニ)、「メサイア」、等のソリストとしても活躍している。
TVでは、日中国交回復25周年記念日中オペラ・ガラコンサート(NHK)、「たけしの誰でもピカソ」(TV東京)、出演等、幅広い活動に注目が集まっている。その深みのある美声と、華やかな容姿で多くの熱烈なファンを持つ。
二期会会員、NHK文化センター講師。

米 澤 傑 (よねざわ すぐる)
テノール



鹿児島大学医学部卒業。現在、同学部教授(病理学第二講座)。日伊声楽コンクール入選、太陽コンクール・カンツォーネ・イタリアーナ優勝、日本クラシック音楽コンクール第1位グランプリ受賞。「蝶々夫人」や「カルメン」等オペラの主役、NHK教育テレビ「第九をうたおう」(指揮・井上道義氏)のソリスト、サントリーホール、オーチャードホール等での新日本フィル「第九」をはじめ、全国各地でのベートーヴェン「第九」、ヘンデル「メサイア」、プッチーニ「グロリアミサ」、ロッシーニ「スタバート・マーテル」等多数の演奏会でのソリストを務め、井上道義、大友直人、若杉弘、小林研一郎、トーマス・ザンデルリンク等の著名な指揮者、ならびに、日本フィル、読売日響、京都市交響楽団、大阪シンフォニカー、札幌交響楽団等の主要オーケストラと共演、また、世界的ソプラノ歌手の松本美和子氏ともしばしば共演、大好評を博し、イタリア、米、韓国でのコンサートでも大成功を取っている。93年発行のCDは巨匠ロリン・マゼール氏に絶賛された。2000年の大阪「ザ・フェニックスホール」でのリサイタルでは聴衆となった聴衆から拍手喝采を浴び、2001年に出演したNHK-FM「名曲リサイタル」には全国から大きな賞賛が寄せられ、霧島国際音楽ホールでのリサイタルでは関東や関西から鹿児島に観客が訪れるという「逆現象」をつくりだした。2002年1月には、ルーマニアでの「日本・ルーマニア国交100周年記念ニューイヤーコンサート」で、尾崎晋也氏指揮・ルーマニア国立トウルグ・ムレシュ交響楽団と共演、その好演は再度の共演を依頼されるほど現地での話題となり、地元音楽誌からも、「これまで、この劇場で歌ったテノール歌手の中で最高」との高い評価を得た。2003年には、井上道義氏指揮、ヴェルディ「レクイエム」(札幌交響楽団、中丸三千繪等の共演)のソリスト等が予定されている。板橋勝、池端ミチ子、ジェームズ・シュワバッカー、松本美和子の各氏に師事。平成10年度鹿児島県芸術文化奨励賞受賞。日伊音楽協会会員、医学博士。

瀬戸口 浩 (せとぐち ひろし)
バリトン



東京芸術大学声楽科卒業。
東京芸術大学大学院声楽研究科修了。
東京芸大在学中に安宅賞(首席賞)受賞。
読売新人演奏会に出演。
大学院在学中第26回文化放送音楽賞(声楽部門第1位)受賞。
大学院修了後、尚美学園、鳴門教育大学・大学院等で教鞭をとり、1992年帰郷、以後鹿児島県牧園町職員として霧島国際音楽ホール(みやまコンホール)に舞台技術監督として現在まで勤務する傍ら演奏活動を活発に行う。
平成13年度鹿児島県芸術文化奨励賞受賞。
これまでオペラでは、モーツァルトの「フィガロの結婚」「魔笛」「ドン・ジョヴァンニ」「コジ・ファン・トゥッテ」、J. シュトラウスの「こもり」、ヴェルディの「椿姫」「リゴレット」、ビゼーの「カルメン」、プッチーニの「ラ・ボエーム」「蝶々夫人」他、すべての主役で出演している。
昨年、鹿児島オペラ協会創立30周年記念オペラとして制作した「ミスター・シンデレラ」でも主役の正男を演じ、音楽情報誌等で絶賛され、今年8月東京都足立区でも一部を演奏した。2004年8月には日本オペラ振興会主催で新国立劇場での演奏が決定している。
演奏会では、山田一雄、秋山和慶、岡田司、G. ボッセ等の指揮により新日本フィルハーモニー、東京交響楽団、東京フィルハーモニー、トランシルヴァニア交響楽団、鹿児島交響楽団、熊本交響楽団等と、「第九」「メサイア」「カルミナ・ブラーナ」「子供の不思議な角笛」「口短調ミサ」、「レクイエム」(モーツァルト、フォーレ)等を共演している。
池端ミチ子、森園千廣、R. リッチの各氏に師事。
また、各地でのコンクール等の審査員も多く務めている。

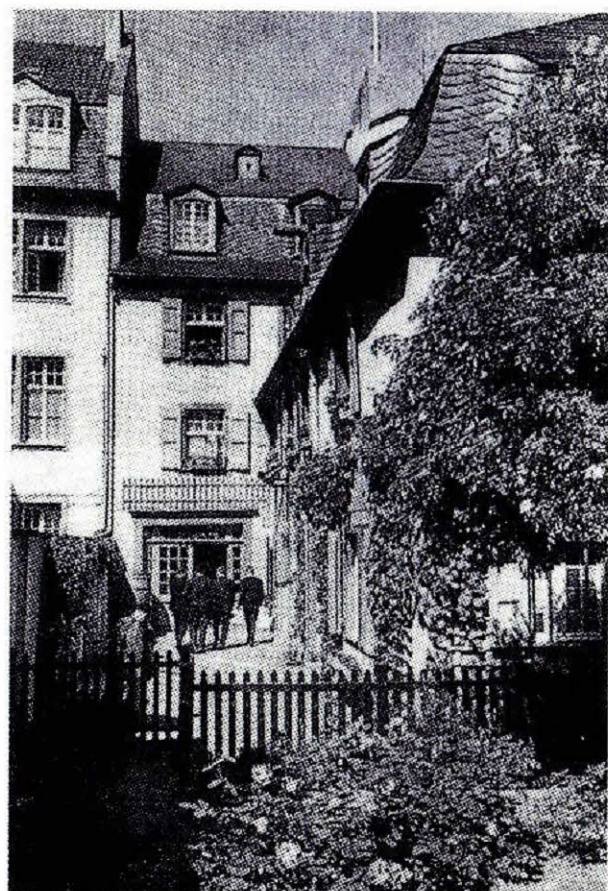
交響曲第9番 二短調 作品125「合唱付き」
ベートーヴェン

- 第1楽章 Allegro ma non troppo, un poco maestoso
第2楽章 Molto vivace
第3楽章 Adagio molto e cantabile
第4楽章 FINALE

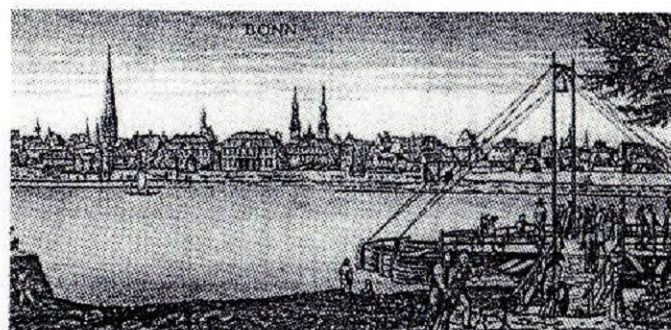
ベートーヴェンは1770年12月16日、ドイツのボンで生まれた。1970年にはベートーヴェンの生誕200年を記念した様々な催しが全世界で行われた。

ボンで行われた“第九”の記念演奏会には日本からもある大学の合唱団が参加した。その演奏会の模様がラジオで中継されると、ボン中の人々は自分の家のラジオのボリュームを一ぱいに上げて、窓辺に外へ向かってそのラジオを置いたという。

ボン中にベートーヴェンの“第九”が鳴り響く様子は、実に壮観で感動的であったに違いない、と同時に、ボンの人々のベートーヴェンを誇りに思う気持ちと愛する気持ちが手にとるようにわかる。



ベートーヴェンの生家(ボン)



ライン河の埠場から眺める対岸のボンの市全景 1800年頃

■ シラー 《歓喜に寄す》

対訳=大宮 真琴

O Freunde, nicht diese Töne ! sondern
lasst uns angenehmere anstimmen, und
freudvollere.

バリトン独唱
おお、友よ、この調べではなく、
さらに快い、さらに喜びに満ちた調べを
ともに歌おう！

Freude, schöner Götterfunken,
Tochter aus Elysium,
Wir betreten feuertrunken,
Himmlische, dein Heiligtum !
Deine Zauber binden wieder,
Was die Mode streng geteilt ;
Alle Menschen werden Brüder,
Wo dein sanfter Flügel weilt,

バリトン独唱・合唱
歓びよ、神々のうるわしい輝きよ！
楽園の娘らよ！
われらみな、感動に酔い、
天の高みの神殿に踏み入ろう！
この世に厳しく引き離された者らを、
神秘なる御身の力は、再び結び合わせる。
御身の優しい翼の翹うところ、
すべての者らは、同朋（はらから）となる。

Wem der grosse Wurf gelungen,
Eines Freundes Freund zu sein,
Wer ein holdes Weib errungen,
Mische seinen Jubel ein !
Ja, wer auch nur eine Seele
Sein nennt auf dem Erdenrund !
Und wer's nie gekonnt, der stehle
Weinend sich aus diesem Bund !

四重唱・合唱
大いなる天の賜物をうけた者らよ、
真空の友情をかち得た者らよ、
女の優しい愛を得た者らよ、
歓びの歌を、ともに歌え！
しかり、たとえ、ただ一人の魂でさえも
地上の友と呼べる者を持つことができるならば！
だが、それさえ持つことのできなかつた者は、
涙しつつ、足音をしのばせ、立ち去るがよい！

Freude trinken alle Wesen
An den Brüsten der Natur ;
Alle Guten, alle Bösen
Folgen ihrer Rosenspur.
Küsse gab sie uns und Reben,
Einen Freund, geprüft im Tod ;
Wollust ward dem Wurm gegeben,
Und der Cherub steht vor Gott.

四重唱・合唱
すべてこの世に在るものら、
自然の胸から歓びを飲み、
すべての善人も、すべての悪人も、
喜びの薔薇の小径を行く。
歓びは、われらに、口づけと葡萄酒と、
そして、死さえも奪い去ることのできぬ友とをあたえ、
虫けらにさえも楽しみがあたえられ、
天使ケルピムは、神の御前立つ。

Froh, wie seine Sonnen fliegen
Durch des Himmels prächt'gen Plan,
Laufet, Brüder, eure Bahn,
Freudig, wie ein Held zum Siegen.

テノール独唱・男声合唱
歓びよ、歓びよ、神の太陽たちが、
壮大な天の軌道をたのしく飛びかうように、
同朋（はらから）よ、おのれの道をすすめ、
歓びに満ちて、英雄が勝利の道をすすむがごとくに。

Seid umschlungen, Millionen !
Diesen Kuss der ganzen Welt !
Brüder ! über'm Sternenzelt
Muss ein lieber Vater wohnen.
Ihr stürzt nieder, Millionen ?
Ahnest du den Schöpfer, Welt ?
Such' ihn überm Sternenzelt !
Über Sternen muss er wohnen.

合唱
たがいに手を取り合おう、億万の人々よ！
この口づけを、全世界にあたえよう！
同朋（はらから）よ、星のかなたには、
愛する一人の御父が住み給うのだ。
ひれ伏して祈るか？億万の人々よ。
創り主を心に感ずるか？世界の民よ。
星空のかなたに、王をさがし求めよう！
星たちのうえに、主は住み給うのだ！

交響曲第9番二短調作品125「合唱付き」

ベートーヴェン

ベートーヴェンは、一つ一つが内容と性格を異にする八つの交響曲を書き終えたのち、生涯の最後に九番目の交響曲に書手した。

1793年、ボンにフィッシェニヒは、シラー夫人の手紙で「彼は歓喜をも、しかも各節残らず作曲するでしょう…」と告げていることにより、ベートーヴェンは生地ボンにいたときから、すでにシラーの詩「歓喜に寄す」に作曲したいと思っていたことがわかる。

1822年に、ロンドンのフィルハーモニー協会は、ベートーヴェンに新しい交響曲の作曲を依頼してきた。このことで、今までベートーヴェンの頭の中に、うかんだり、消えたりしていた合唱付きの交響曲の構想が、いっきよに実現することになった。そして1823年から24年にかけて、この巨大な交響曲が完成した。シラーの「歓喜に寄す」に作曲する意図をいだいて、完成するまでに、じつに30数年にわたっていることになる。

この曲は、ベートーヴェンの音楽における技法と精神の最も円熟した時代の作品であって、その内容が雄大な精神と、大胆にして洗練され、全く独創に富んだもので、いく多の目新しい技法がそこに示され、その楽想は当時の常識を全く超えたものであった。四人の独唱者や大規模な合唱団を用いたり、終曲の初めにおいて、前の三つの楽章を回想したりなどはその一例である。

初演は1824年5月7日夜、ウィーンのケルントナート劇場で行われた。

ベートーヴェンの聴力がかなり衰えていたことは、この曲の初演の際に、指揮者を二人おいたことでもわかる。ベートーヴェンは正指揮者のウムラウフの隣りにあって、実際の演奏とは、くい違ったテンポや表情で空しく空間に弧を描くのみであったという。

「第九」の演奏は練習不足ではあったが、聴衆には偉大な感銘を与え、各楽章の終わりには万雷の如き拍手が起った。特に終曲が終わったとき、成功は決定的となった。満堂の聴衆は感激して総立ちとなり喝采を浴びせた。しかし、耳の聞こえないベートーヴェンは聴衆を背にしてボンヤリしていた。見かねたアルトの独唱者ウング

ーがかれの袖をひいて聴衆の方を向けたので、かれは初めてこの曲が非常な感銘を与えたことを知り、礼をしたという。聴衆はこの劇的な悲愴な光景に感激し、さらに拍手を続けて、作曲者を五度も答礼のためにステージに出させた。答礼は三回というのが皇帝に対する礼儀なので、警官があわてて聴衆を制したという。

〔第一楽章〕 Allegro ma non troppo, un poco maestoso

「第九」の規模の雄大さと、劇的な性格は、はやくもこの楽章でも示されている。導入は、天地の混沌を想わせる茫漠とした空5度（第三音が無い）の響きで始まる。やがてこの響きのなかから鋭いリズム・モチーフが生起する。このモチーフが圧縮され、第1主題が澎湃（ほうはい）として沸き起こる巨大な魂のごとく轟然（しょうぜん）たる姿をあらわす。ソナタ形式は、いまだかつて、このような主題を経験したことがなかったのである。

第2主題は第1主題と異なって、楽しい性格のものである。これにつづく部分も、大体においてこの気持をもち、ときどき第1主題の部分をまじえながら展開部へとつづく。そしてその劇的壮大さは再現部における第1主題へ壮烈な導入において、クライマックスに達する。

ワーグナーによると「我々と地上の幸福との間をさえぎる敵意ある暴力の圧迫に対して、喜びを勝ち得ようと努める魂の戦い、極めて壮大な意識で把握された戦いが、この第一楽章の基礎をなしているように思える」である。

〔第二楽章〕 Molto vivace

およそベートーヴェンの書いたスケルツォのなかで、最も大規模なものである。鋭い付点リズムを含む、むしろ単純なスケルツォ楽想が、およそ考えうる限りのすべての展開を行う。トリオの主題はあきらかに第一楽章のエピソードから受けつがれたものであり、終楽章の「歓喜の調べ」への橋わたしの役を果たすことにもなるのである。

ワーグナーは「激しい喜びが、この第二楽章をはじめのリズムで直ちに我々をとらえる。新しい世界の中に我々は入り、そこで陶酔や麻醉へと駆りたてられるからである…」と言っている。

〔第三楽章〕 Adagio molto e cantabile

賛歌ふうの主題旋律と希望と浄化を象徴するような明るく美しい第二主題は、この両主題にもとづく由由な変奏形式をとっており、叙情的な旋律、色彩的な和声は、宗教的な敬虔さをもって瞑想的に展開され、情熱も闘争もない平和な幸福感が描き出される。

この交響曲の中で一つの頂点であり、ワーグナーは「なんと清らかに天国のようななだめ方でそれ等の音は反抗と絶望におののいた魂のはげしい促しを、やわらかい憂鬱（ゆううつ）な感覚へと溶けさせていくことが、思い出がごとくに享受したきわめて純粋な幸福への思い出が目ざめるかのように思われる…」と言っている。

〔第四楽章〕 FINALE

第1呈示部＝まず管打楽器によるあわただしい楽想が奏される。これに対し低弦がレシタティブでこたえる。それから、前の三つの楽章がそれぞれ回想され、低弦のレシタティブによって否定されていく。そしてついに、一つの歓ばしい旋律が現れる。この主題は初めに低弦によって歌われ、くり返しながら全合奏に至る。

第2呈示部＝この楽章の初めの、あわただしい楽想がもどってくる。やがてバリトン独唱が、力強く歌いはじめる。ついで合唱がそれにつづく、

やがて他の独唱も加わり、ひとつのクライマックスをつくる。曲想一転して行進曲となり、テノール独唱が歌いはじめる。そして男声合唱が、力強く歌いくわわる。

再現部＝やがて曲はふたたび「歓喜の調べ」がもどり、合唱が重々しく新しい主題をうたう。やがてこの新しい主題と「歓喜の調べ」とが組み合わされて、壮麗な二重フーガがくりひろげられ、全曲中の一つのクライマックスを形づくる。

コーダ＝曲想が一変する。主題旋律の新しい変奏に入り、四人の独唱者と合唱が変化のかざりをつくして、交互に歌いすすめる。

圧倒的な合唱コーダとなり、合唱の最後は、マエストロとなるが、管弦楽だけが残り、圧倒的な終結を一気に終る。



「第九」の初演でソプラノをうたった
ヘンリエット・ゾンターク

「熊本県民第九の会」実行委員会

顧問	*下田 宰城	委員	神田 一伸	*林 原 隆 治
			*草 刈 秀 克	藤 本 幸 弘
委員長	草 刈 秀 士		坂 口 幸 男	松 岡 聡
			*田 北 洋 康	*本 山 洋
			*黒 葛 原 潔	*山 崎 崇 伸

* = 連続20年間実行委員会委員(顧問)

〈コンサートマスター〉 鶴 和美

〈1stヴァイオリン〉	〈ヴィオラ〉	②⑩ 国 米 稔	〈ファゴット〉
⑩桂 敦子	安部 和歌葉	斉藤 一誠	大場 歩美
⑩佐藤 弘美	荒木 拓実	坂田 英津子	小田 穂積
多賀 美紀	池辺 京子	白木 信一郎	田村 聡司
高木 恭子	⑩緒方 肇	園田 晃裕	山本 義都
田中 唱	⑩清元 晃	高木 美緒	
続 宏美	②⑩甲田 啓子	⑩田上 博子	
⑩黒葛原 契子	⑩黒葛原 潔	三浦 裕一郎	〈ホルン〉
黒葛原 洋子	⑩水田 剛		奥羽 秀一
⑩鶴 和美	②⑩山崎 崇伸		奥羽 朋子
豊永 恭子	⑩吉田 美智子		斉藤 恵之
②⑩長坂 浩子	鷺山 肇	〈フルート〉	田中 禎子
⑩織川 明子	鷺山 法雲	伊藤 久美子	野村 梢
⑩原 雅子		宇野木 千鶴	
山口 みゆき		椎葉 暁子	
		田中 里奈	〈トランペット〉
	〈チェロ〉		上村 佳朗
	⑩石垣 博志		⑩豊田 恭司
	佐無田 護		②⑩堀江 幸司
〈2ndヴァイオリン〉	⑩長尾 和治	〈オーボエ〉	
②⑩岡 純子	永倉 照恵	石田 栄理子	
置田 みどり	②⑩長坂 輝喜	⑩片岡 久哉	〈トロンボーン〉
⑩小柳 敦子	⑩野島 秀司	⑩辰野 裕昭	梅田 雄介
坂田 弘子	パトリック・ノウリン	藤田 真幸	田北 康一郎
汐月 哲夫	⑩佛淵 かつよ		西 亮祐
新川 友香子	⑩佛淵 信夫		
高木 信雄	⑩本田 義信		
⑩龍野 珠美	⑩三浦 純子	〈クラリネット〉	〈パーカッション〉
⑩田上 るみ子	右田 晴久	緒方 裕子	小野上 真樹
黒葛原 康子		⑩黒木 健次	⑩白尾 友宏
⑩東 眞知子		畑中 亮二	⑩福島 好
松隈 法美		前野 美千代	山中 美雪
村田 裕子	〈コントラバス〉		
②⑩本山 洋	岩井 秀一		
柚原 三弥子	桑原 寿哉		

- 第1回 昭和57年12月28日(火)
指揮/山田 一雄 独唱/新 圭子 木村 宏子 伊豆野 修 高橋 修一
※越天楽(雅楽).....近衛秀麿(編曲)
- 第2回 昭和58年12月11日(日)
指揮/大友 直人 独唱/高見久美子 岡 ますみ 大野 光彦 柴田 啓介
※楽劇「ニルンベルグのマイスタージンガー」前奏曲.....ワーグナー
- 第3回 昭和59年12月27日(木)
指揮/山岡 重信 独唱/中沢 桂 木村 宏子 板橋 勝 池田 直樹
※弦楽のためのアダージョ 作品11.....バハ
- 第4回 昭和60年12月25日(木)
指揮/フアンティエック・ワナル 独唱/三縄みどり 妻鳥 純子 伊達 英二 中村 邦男
※序曲「レオノーレ」第3番 八長調 作品72a.....ベートーヴェン
- 第5回 昭和61年12月27日(火)
指揮/荒谷 俊治 独唱/津下美奈子 木村 宏子 鈴木 寛一 芳野 康夫
※トッカータとフーガ 二短調.....バッハ〜ストコフスキー
- 第6回 昭和62年12月26日(土)
指揮/安永武一郎 独唱/中沢 桂 木村 宏子 近藤 伸政 栗林 義信
※「エグモント」序曲 へ短調 作品84.....ベートーヴェン
- 第7回 昭和63年12月25日(日)
指揮/安永武一郎 独唱/三縄みどり 木村 宏子 鈴木 寛一 平野 忠彦
※序曲「コリオラン」八短調 作品62.....ベートーヴェン
- 第8回 平成元年12月24日(日)
指揮/小松 一彦 独唱/秋山恵美子 木村 宏子 成田 勝美 高橋 啓三
※「プロメテウスの創造物」序曲 作品43.....ベートーヴェン
- 第9回 平成2年12月23日(日)
指揮/棚山 和明 独唱/山田 綾子 木村 宏子 大野 徹也 福島 明也
※「ロオザムンデ」序曲 作品26.....シューベルト
- 第10回 平成3年12月23日(日)
指揮/安永武一郎 独唱/西森 由美 木村 宏子 田中 誠 宮原 昭吾
※「エグモント」序曲 へ短調 作品84.....ベートーヴェン
- 第11回 平成5年12月23日(木)
指揮/荒谷 俊治 独唱/河添 富士子 春日 成子 小林 彰英 栗林 義信
※楽劇「ニルンベルグのマイスタージンガー」前奏曲.....ワーグナー
- 第12回 平成6年12月24日(日)
指揮/金 洪才 独唱/岩永 圭子 妻鳥 純子 養場 知昭 勝部 太
※「エグモント」序曲 へ短調 作品84.....ベートーヴェン
- 第13回 平成7年12月24日(日)
指揮/金 洪才 独唱/西森 由美 妻鳥 純子 大島 博 大島 幾雄
※モテット「アヴェ・ヴェルム・コルプス」k.618.....モーツァルト
- 第14回 平成8年12月23日(月)
指揮/本名 徹二 独唱/河添富士子 妻鳥 純子 大間知 寛 瀬戸口 浩
※カンタータ第147番よりコラール「主世、人の望みの喜びよ」BWV147...J.S.バッハ
- 第15回 平成9年12月21日(日)
指揮/金 洪才 独唱/志岐由理子 妻鳥 純子 牧川 修一 小川 裕二
※序曲「コリオラン」八短調 作品62.....ベートーヴェン
- 第16回 平成10年12月20日(日)
指揮/井崎 正浩 独唱/佐々木典子 岩森 美里 井ノ上了吏 瀬戸口 浩
※序曲「レオノーレ」第3番 八長調 作品72a.....ベートーヴェン
- 第17回 平成11年12月19日(日)
指揮/レオ・クレマー 独唱/水野 貴子 青山智英子 持木 弘 松本 進
※「エグモント」序曲 へ短調 作品84.....ベートーヴェン
- 第18回 平成12年12月23日(土)
指揮/金 洪才 独唱/河添富士子 妻鳥 純子 大間知 寛 大島 幾雄
※歌劇「フィデリオ」序曲 作品72b.....ベートーヴェン
- 第19回 平成13年12月23日(日)
指揮/田代 詞生 独唱/佐々木典子 青山智恵子 井ノ上了吏 松本 進
※歌劇「魔弾の射手」序曲.....ウェーバー

※今回は第20回の節目の年に当たりますので、10回以上の参加者を紹介します。(氏名の前の○印の数字が出演回数です)
②は全20回、⑩は10回以上の出演を表します。

連絡事項

1. ステージ配列について

ステージの配列は男性が中央になりますので、中央から背丈が高い人順に経験度合いや、特殊事情等を組み合わせながら裏表のとおり作成しました。実際に並んでみて不揃いの場合は入れ替えもありますので、あらかじめご承知置きください。

2. 集合時間の厳守（下記時間の15分前には集合するよう心掛けてください）

- ◎ 21日(土) 18:00 コンサートホール ホワイエ
- ◎ 22日(日) 13:30 コンサートホール ホワイエ

※自家用車の方は、年末で交通が混雑していますので、30分前に到着する予定でお出かけ下さい。
なお演奏会当日自家用車使用（県劇駐車場使用）はご遠慮下さい。

※万一急病等で参加できなくなった場合は直ちに連絡して下さい。（090-5725-7720草刈）

3. 服装について

服装については募集要項に記載のとおり、

（女声）白長袖ブラウス、黒又は濃紺のロングスカート（丈は靴が隠れる長さです）黒靴。

（髪飾り、ネックレス、イヤリング、ブレスレット等）はご遠慮下さい

※靴はローヒールをご使用下さい。ステージの並び方は申告して頂いた身長を考慮して配置してあります、ハイヒールは長時間の起立で疲れますし並び方にも影響しますのでご遠慮下さい。

（男声）白カッターシャツ、黒蝶ネクタイ、黒又は濃紺のスーツ、黒靴（黒学生服でも可）

※香りの強い化粧品や香水等は、使用しないで下さい。

4. ステージについて

ステージには皆さんが立たれるポジションを印したテープを張ります。体の中央にテープがくるように立ってください（テープはパート毎に色分けしてあります）また、横を見て凹凸がないようにご注意ください。

◎今回はRKKTVが録画し年末番組として放映されます。並びが悪いと目立ちますので、お互いに注意しましょう。ステージに立ったら脇見をしないで視線は指揮者の方へ。

※21日13時よりひな壇組み・288名分のテーピング・指定席の座席表示（540席に表示を貼る）をしますので皆様のお手伝いをお願いします。（男性・女性出来るだけ多くの方）

※入場は3楽章の後に入場します、2列でスピーディに入場してください。両サイドの最後の入場者（※印の方）は必ずドアを閉めて入場してください。

※演奏中気分が悪くなったり、立ちくらみなどの場合は、我慢せずその場に座ってください。

（一度座られた方は、最後までそのままの状態をお願いします）

※本番演奏会終了後退場される時に、テープは剥がして退場してください。

5. 自由席券の精算・写真の申し込み・券を10枚以上販売者のCD送付先メモ等について

上記については出来るだけ本日中をお願いします。実行委員は演奏会前日・当日は準備その他で忙しく、事故防止上からも現金は出来るだけ扱わないようにしたいと思いますので、ご協力をお願いします。

（個人的にCDを申込まれる方は、当日現金を添え業者に直接お申込下さい）

6. 当日の夕食について

全員に軽食を用意します。各控室に届けますが、食事後の空箱は各控室毎まとめて5:30時までに地階大道具搬入口まで出しておいてください。（手を付けないものがありましたら、持ち帰られるかレセプション会場にお持ち下さい）

7. その他

(1)団員に対する花束等は大会議室前に置きます。会議室前のボードに贈られた方の氏名を記入したシールを張り出しますので、確認し自分のシールは剥がして品物を確認してお持ち帰り下さい。

(2)レセプション開始は20時過ぎの予定ですが、指揮者・ソリストが揃うまで飲食はお待ち下さい。

(3)20回連続出場の方はレセプション時に記念品をお渡しします（レセプションに参加されない場合は記念品を受け取ってお帰り下さい）。

(4)RKKTVの放映は平成14年12月30日午後3時から1時間番組の予定です。

第20回熊本県民第九の会本番進行表 (H14.12.22)

時刻	プログラム	進行	オーケストラ	合唱団
13:30				13:30 集合(ホール前) ・諸連絡 ・練習
14:00	リハーサル開始	1. 第九：第1：第2：第3	1. 第九：第1：第2：第3	
15:00		2. 第九：第4楽章 3. 蛍の光（予定）	2. 第4楽章合同 3. 蛍の光（予定）	14:50 入場口 待機 15:00 第4楽章合同練習 蛍の光合同練習 退場・諸連絡
16:30	リハーサル終了（予定）		リハーサル終了後 弁当・更衣	16:30~17:30 弁当・更衣・休息
17:30	開 場			17:30 各控室付近で待機
18:12	第1ペル	第1ペル	18:12 舞台袖待機	
18:15	ステージライトアップ オーケストラ入場	ステージライトアップ オーケストラ入場	18:15 ステージライトアップ オーケストラ入場	
18:18	第九交響曲 所要時間約70分間 ・第1楽章(16分)	指揮者入場	第九交響曲演奏	(18:18 第九演奏開始)
18:34	・第2楽章(14分)			18:34 第2楽章で 入場口へ移動開始 (各入口の先頭は第2楽章 の終了に注意する事) 18:48 ステージが暗くなる ・入場する(30秒) ・起立のまま待機
18:48	ステージライトを落とす ソリスト・合唱団入場(30秒)	ステージライトを落とす	オーケストラ板付き	18:48 ステージが暗くなる ・入場する(30秒) ・起立のまま待機
18:49	ステージライトアップ ・第3楽章(16分)	ステージライトアップ ・第3楽章	ステージライトアップ	ステージライトアップ ・起立のまま待機(16分)
19:04	・第4楽章(24分)	・第4楽章	・第4楽章	・第4楽章 演奏 (24分)
19:28	セレモニー 花束贈呈 アンコール(蛍の光)	贈呈・ソリスト 出入り 花束贈呈 アンコール(蛍の光)	オーケストラ板付き	19:28 合唱団板付き
19:45	オケ・合唱団退場 演奏会終了	オケ・合唱団退場 楽器&ひな段片付け	退 場 楽器&ひな段片付け	アンコール(蛍の光) 退 場 ひな段片付け&更衣
20:00	(センター行き)出発			

年末恒例「第九」演奏会

290人 歓喜の歌声

女性も初のタクト

県劇で
20回目



歓喜の歌声が響いた第九演奏会—県立劇場

県内の合唱愛好者が一堂に集う年末恒例のペーパーベン「第九」演奏会が二十二日、熊本市の県立劇場であった。県民第九の会（草刈秀士実行委員長）主催で二十四日、高校生から七十歳代までの男女約二百九十人が

合唱に参加。クライマックスの四楽章でシラーの詩「歓喜に寄す」の一節を下イツ語で高らかに歌い上げ、会場に雄大な雰囲気醸した。
セントラル愛知交響楽団常任指揮者の松尾葉子

熊日・熊本学園創立60周年記念

公開講座「DO がくもん」X

▽日時 1月11日(土) 午前10時半から12時半まで
(午前10時から受け付け)
▽ところ 熊本学園大学12号館(熊本市大江)
▽テーマ

指導者から見た リーダーシップ像について

▽講師 熊本中央高校バドミントン部監督 工藤勇彦氏、九州学院高校野球部監督 坂井宏安氏、慶誠高校卓球部監督 高木誠也氏、熊本学園大学教授 北井和利氏

▽内容 スポーツ選手の競技力を向上させるためには「より良い練習環境」とチーム(選手)のリーダーシップが望まれます。そこで一流選手を数多く育てられた指導者の方々と、リーダーシップ像について考えます。

▽募集人員 200人 ▽受講料 1000円 ▽申し込みはがきに郵便番号、住所、氏名(ふりがな)、年齢、電話番号を記入、〒862-8680、熊本市大江2-5-1 熊本学園大学内「DOがくもん」X 第4回特別セミナー係へ。※会場には駐車場がありませんので、公共交通機関をご利用ください。

◇企画・運営 「DO がくもん」X実行委員会

熊本学園大学、熊本日新聞社

さんが同演奏会で女性で初めてタクトを振り、県出身の二期会会員、三縄みどりさん(ツブラノ)や日伊音楽協会会員の米澤傑さん(テノール)ら四人が独唱を務めた。管弦楽は熊本交響楽団約百人。同演奏会は一九八二年に県立劇場の開館記念で第一回を開催。その後、合唱愛好者らが実行委を

引き継ぎ、毎年団員を公募して夏から練習している。これまでに延べ約六千人が参加。同劇場の年末の「風物詩」として親しまれている。



歓喜の歌声が響いた第九演奏会—県立劇場